



地域の夢

三島地域

「新市地域らしさ価値」を高めるための三島地域の方針と活動

三島地域は、こんなところ

■三島町の成り立ち

三島町は新潟県のほぼ中央に位置する、美しい自然と歴史の町です。三島町の起源は古く、町内から先史時代を代表する千石原遺跡、根立遺跡、船岡遺跡が発見され、縄文時代から生活に適した地であったことがうかがえます。

三島町には小木城や鳥越城をはじめとして多くの山城が確認されています。このうち小木城は刈羽郡を南北に縦走する西山山地の稜線上にあり、南北朝のころ、新田氏に属した荻氏の城で連絡の要地の役割をなしたと伝えられています。また天明年間には脇野町に代官所が置かれ、その支配下に発展してきました。

江戸時代に手引き鋸が匠の手によって興され、西山連峰のおいしい水を使った酒、味噌・漬物、そうめん、など歴史ある食文化が根付いています。



三島地域の方針と活動 (右頁参照)

三島地域において「新市地域らしさ価値」を高めていくための方向性と、活用したい地域資源（地域の強み）から検討した、将来実現すべき地域の姿（整備・活動方針）と実現のための活動・展開を提示します。

■匠の里

三島町は蔵人や宮大工など伝統の技が生きる匠の里です。手引き鋸で名高い脇野町鋸は約160年前、脇野町村の中屋庄兵衛が鋸製造を興したのが始まりで、今でも職人用の道具として伝統技術が引き継がれています。

■安心・安全・快適な住宅地

三島町は、長岡市に隣接し通勤通学などの利便性も高く、自然も豊かな町です。近年は安価で優良な宅地造成や教育福祉施設の整備に力を入れ、人口が増加している町です。

1 整備・活動方針と活動展開

一新市全体のありたい姿 WANT

三島地域において

独創企業が生まれ育つ都市

～誠実さが生み出す「技」立国・新ながおか～

を高める方向性

- ・地域に息づく伝統の技を核に、地域内外の人たちとのネットワーク拡大による伝統地場産業の更なる発展

一実現すべき三島の姿 WILL

■三島地域整備・活動方針

確かな伝統の技で信頼・支持されるモノづくり発信地

- ・ものづくりへの誠実さ、確かさ、粘り強さを維持・発信する地域となる

実現していくための活動・展開

見極める

- まちづくり団体を核とした地域内外ネットワークづくりによる、地場産物の提供拡大
- 伝統食品の新技术・高付加価値新商品開発の展開

発信する

- 酒蔵ネットワークづくりの推進とイベント等開催による酒づくり地域のPR展開
- 地域産業としての食をテーマとした情報発信機能の強化

育てる

- 鋸鍛冶・杜氏など、伝統の技を次代につなげる人材受け入れ体制の拡充と、活躍の場づくり
- 総合学習へのテーマ提供、伝統技術の指導体制づくりによる子どもたちに向けた地域産業の魅力づくり

一活用したい地域資源 CAN

活用したい地域資源/資源の強み・内容

おいしい自然の恵み

- 酒、味噌・漬物、そうめん
- ・西山連峰からのおいしい水を使った歴史ある食文化が根づいており、ファンも多い、また、酒米の生産も行っており、「酒・米・水」といった地域のイメージ発信が可能

伝統の技・職人

- 手引き鋸、杜氏、蔵人、宮大工
- ・手引き鋸日本三大産地であり、現在も4人の職人がおり、手引き鋸の需要は低下しているものの、盆栽用のミニ鋸など新しい分野への取り組みもあり、工芸品として伝統技術が引き継がれていく可能性を有している

まちづくり団体の活動

- ・まちづくり団体などにより、地場産業である農業と酒造業の連携や農家・蔵人・消費者のネットワークづくりによる県内初の酒づくりトラスト活動が行われており、その広がりが期待できる

2 整備・活動方針と活動展開

一新市全体のありたい姿 WANT

三島地域において

元気に満ちた米産地

～まごころ米の生まれる里・新ながおか～

を高める方向性

- ・大規模ほ場や中山間地の天水田といった多様な農環境をフルに活用し、新ながおかの農業への試みを実践していくことで、高付加価値農産物を安定供給していく

一実現すべき三島の姿 WILL

■三島地域整備・活動方針

「人と自然」の元気を活かした環境循環型農業の拡大地域

- ・高付加価値な農産物づくりを実践し、新ながおかの先進的な取り組みを広げ、産業化していく地域となる

実現していくための活動・展開

見極める

- 土づくり、栽培技術の開発など、環境重視・循環型農業の取り組み強化、拡大
- 高付加価値米の生産・加工・販売システムづくりによる、中山間地域の活性化

発信する

- 学校給食をはじめとした地元産食材利用の展開による、地産地消の拡大とモデル化

育てる

- 地域営農体制の強化や生産組織・担い手の育成による循環型農業地域づくり

一活用したい地域資源 CAN

資源の強み・内容

大規模ほ場

- ・大型ほ場により、作業効率の向上、コスト低減が可能となる、また、中山間地の天水田も整備されており、高い品質の米をつくりやすいしくみができている

高い担い手集積率

- ・県内第3位の集積率(H13)
- ・10ha以上の大規模経営農家も10戸ある（最大17ha経営者）

良質米の生産地

- ・平成8年度から土づくりを推進し、その面積は延べ1,000ha（水田全体741ha）となっており、品質の高い米づくりのベースがある

農村生活アドバイザー等

- ・地産地消を目指す元気な人たちが育ちつつある、また、野菜市なども開設している元気なお母さんたちがいる

地元食材の利用

- ・学校給食で地元の野菜・米の利用を進めており、食品産業とあわせ地産地消の実践を進めている

3 整備・活動方針と活動展開

—新市全体のありたい姿— WANT

三島地域において

世代がつながる安住都市

～未来人を育む資源博物館・新ながおか～

を高める方向性

- ・自然空間と人とのつながりを大切にする風土を活かし、住民主体のコミュニティ育成による快適・安心地域の創出

—実現すべき三島の姿— WILL

■越路地域整備・活動方針

自然空間を活かし、地域コミュニティを育む生涯ゆとり実感都市

- ・自然と人・人と人が融合し、地域力を活かしたコミュニティ育成モデル地域となる

実現していくための活動・展開

見極める

- 全ての世代が快適に生活できるゆとりの住環境づくり
- 地域に開かれた学校を活用し、地域住民による教育環境づくり

発信する

- 住民主体による里山など身近な自然の保全とまちづくりの手法を活用した、生活の質を高める新たなスタイルの発信
- 自然空間と地域コミュニティを活かした「子育て・福祉最適環境づくり」のモデル化と発信

育てる

- 世代間・地域間の交流（教育・福祉活動）を促進するコミュニティづくり
- 住民が主体となったまちづくりが実現できる、人材・組織育成システムの創出

—活用したい地域資源— CAN

資源の強み・内容

人・地域コミュニティ

- 人に優しい気質と風土、コミュニティを大切にする住民意識、まちづくり、福祉ボランティア、地域に開かれた学校、ふるさと塾、グレードアッププロジェクト（小学校総合学習事業）
- ・ボランティアを中心とした地域間交流など、コミュニティ形成が活発であり、子育てママの集い、いきいき広場など幼児から高齢者にやさしい活動が根づいている
- ・学校も地域に開かれ、世代間交流の拠点となっており、新たなコミュニティ形成の可能性を有している

教育熱心な気質

- ・旧脇野町小学校は住民の熱意により昭和3年、村予算の3倍の巨費を投じて立派な校舎（県内2番目のRC構造）を建設した歴史を持つ、今もこうした教育熱心なまちであり、地域や町を愛する人が多い

良好な住環境

- 長岡駅、IC、海へのアクセス性、ゆとりの住宅地、身近な自然空間（里山・田園など）、安心生活基盤、農村地区の工業団地
- ・優れた立地条件・地区計画等による良好な環境を備えた、ゆとりの住空間の提供が可能
- ・道路が整備され、安心して自然とふれあえる里山・家族で楽しめる公園などもあり、多様な生活環境の享受が可能、また、学校・病院・福祉施設がコンパクトなエリアに設置されており、地区リハビリ等地域コミュニティとあわせて家族の安心を高める地域としての可能性を有する（上下水道、都市ガスも整備済み）

4 整備・活動方針と活動展開

—新市全体のありたい姿— WANT

三島地域において

世界をつなぐ和らぎ交流都市

～「人」「ものがたり」「競和国」・新ながおか～

を高める方向性

- ・体を動かし、楽しさ・明るさ・温かさを心で感じてもらう地域個性あふれるイベントを、新ながおかの交流資源に発展させ、交流による人材育成を推進する

—実現すべき三島の姿— WILL

■三島地域整備・活動方針

アイデアと人の和でつくる新ながおかの独創イベント発信地

- ・住民力を活かした交流人材育成地域となる

実現していくための活動・展開

見極める

- 新市民に憩いを提供する、自然とのふれ合い・交流拠点づくり
- まちづくり団体、スポーツ・文化団体の活動を活かした自由で新たなイベントをおこす、人材・組織づくり

発信する

- 新たな独創的イベント等による人と人のネットワーク化と地域ファンづくり

育てる

- 地域内外との交流を促進するための、子どもからの人材育成と交流の場の創出

—活用したい地域資源— CAN

資源の強み・内容

アイデアと伝統の祭り・イベント

- 西山連報登山マラソン大会（めずらしい過酷な登山マラソン、参加者約50人）
- 全日本丸太早切り選手権大会（三島町の特産品を活用した、ユニークなイベント）
- ・地域の環境や特産品を活用したテーマ性の高い新しいかたちのまつり
- ・イベントを地域住民・ボランティアで開催、盛り上げ継続していく地域力がある
- 各集落の伝統行事神楽舞、百八灯、賽の神など
- ・伝統行事については各集落で伝承されるとともに神楽舞等は新ながおかの各地で連携することで子どもから高齢者の交流、地域外へのアピールも可能となる

人・まちづくり団体

- 三島町ふるさと塾、和創良酒の会、地域福祉会などのボランティア団体・スポーツ・文化団体
- ・まちづくり活動を住民ベースでおこなっている「ふるさと塾」では、まちづくりやイベント開催に対応した人のネットワークを有しており、和創良酒の会をはじめとする交流人材の核となっている
- ・スポーツや文化を通じた交流が盛んな地域である

もっと詳しく地域のか

三島地域

三島町では、まちづくり団体「三島町ふるさと塾」が母体となって、「和創良酒の会」を設立。地場産業である農業と酒蔵業の連携や農家・蔵人・消費者のネットワークづくりによる県内初の酒造りトラスト活動が行われています。自然との和をもって「酒づくり・人づくり・まちづくり」をしようというのですが、愛郷精神にあふれた住民こそが三島町発展のパワーにつながっています。

■「人にやさしい気質と風土」

自然豊かな西山連峰と広大な田園風景に囲まれた三島町は、やさしさや温かさ、そして人と人とのコミュニティを大切に作る風土をもつ町です。

藩校教育が盛んになった江戸の中期以降、上山藩の分校に当たる明新館支館ではいち早く、領内農民の子弟教育が行われました。こうした地域に開かれた教育方針は、現在でも受け継がれ、学校が世代間交流の拠点となっています。

また、「子育てママの集い」「いきいき広場」など、幼児から高齢者にやさしい様々な福祉活動等が行われており、地域コミュニティの輪が広がっています。

そして、西山連峰登山マラソンや全日本丸太早切り選手権大会など地域資源を活かしたイベントは、地域住民の熱意と参加により官民一体になって開催されています。

各集落で传承されている神楽舞、百八灯、賽の神などは、子供から高齢者まで世代を越えた交流の場になっています。

都市近郊で自然も豊かで魅力ある三島町は、立地条件の良ささと人にやさしい気質と風土により、人口が増加している町です。



■良好な住環境

行政と住民の協働による土地区画整理事業は、安価で優良な宅地造成を可能とし、県内でも人口増加率がトップレベルの三島町。現在「ゆとり」をテーマとした「はなみずき団地」は、地区計画を定め、緑化推進と街並み景観に配慮した良好な住環境を提供している。



■全日本丸太早切り選手権大会

三島町の特産品を活用したユニークなイベント。巨大な鋸を使い2人組で丸太切りの速さを競う大会。



■神楽舞

農事を祝う舞として、春まつりに各集落の神社で奉納されている。この神楽舞を伝承保存するため、各集落では大人から子供へ教え伝えられている。



■和創良酒の会

三島町ふるさと塾のメンバーが母体となって設立。人と自然の循環型まちづくりを志向し、会名は「和を以って創る良い酒の会」の意味。こだわりの酒づくりを進めるとともに、会費の一部を自然環境保護の基金として、山間部の水田保全や植林活動など地域トラスト運動も実施している。



■地域に開かれた学校

地域の人々が先生となり、自然や伝統文化などを教える総合学習が積極的に行われており、地域と学校が一体となった教育環境づくりと世代間交流が行われている。